

今年度第1回目となる外国語活動・外国語の研究授業を神野 孝一 教諭が行いました。新型コロナウイルス感染症対策のため体育館で行いました。協議会では、表現を繰り返し言うための仕掛けや中間指導について活発な意見交流を行いました。指導・講評では、文部科学省初等中等教育局視学官 直山 木綿子 先生よりご指導いただき、研究を深めました。

研究主題

関わり合い、学びを広げ、深める児童の育成

～ 思いを豊かに表現できる授業づくりを通して～

授業者:3年2組 担任 神野 孝一 教諭

単元名:Unit 2 How are you? ごきげんいかが?

指導講評:文部科学省初等中等教育局視学官 直山 木綿子 先生より



〈研究経過報告〉

単元目標である「表情やジェスチャーを付けて相手に伝わるように工夫しながら、挨拶をしようとする」を達成するために3つのことを重点的に取り組んできた。

①表現を繰り返し使うための学習活動の工夫

本単元では、「先生の気持ちは何だろう」というインタビュー動画を見せることや、絵本の読み聞かせを通じて、新しい英語表現への慣れ親しみや、伝え合うことへの意欲を高めた。また、【Let's Sing】Hello Songをただ歌うのではなく、繰り返し歌いながら自分の感情や状態を伝えるやり取りへとつなげることで、Activityでの児童同士のやり取りや、先生達へのインタビューに自信をもって取り組むことができるようにした。

②本時のねらいや場面、状況に応じているかという視点での中間指導の実施

これまで本校の研究授業での中間指導というと「言いたかったけれど、言えなかったことを出し、どう言えばよかったかを児童と一緒に考え、引き出す」といった活動がメインであったが、外国語活動を始めたばかりの3年生の既習事項は少なく実施が難しい。そこで今回は、「どのような表現がより自分の気持ちを伝えられるか」という視点をメインに中間指導を行うことで、児童がコミュニケーションを行う目的や場面、状況を明確にした活動を行うことができるようにした。

③エンドプロダクトを伝え、見通しをもたせる

単元の始めにエンドプロダクトを提示し、どんな力を付けたいか児童が見通しをもてるようにした。最後に教員にインタビューを行うことを伝え、そのために必要な表現に繰り返し慣れ親しませるよう活動の工夫を行った。伝え合うことへの関心・意欲を高めた。

〈授業者自評〉

- ・今年度の初めての研究授業だったので、今までの研究で取り組んできたことを活かす授業を心掛けた。今年度異動してきた先生達に少しでも湊江小学校の外国語活動・外国語科研究の取り組みが伝わってくれたら嬉しい。
- ・1.2年生の時に「外国語活動は楽しい」という下地ができていますので、児童はとてもワクワクしながら授業に参加してくれている。
- ・授業計画や準備の段階からたくさんの先生方が協力をしてくれて嬉しかった。「チーム湊江」の絆の強さを感じた。

〈研究協議会〉

研究の視点について

視点1 Hello Songの活用や教員へのインタビューといった活動が、表現を繰り返し使うための学習活動の工夫として効果的だったか。

- ・エンドプロダクトで先生達へのインタビューを行ったことが良かった。児童が先生達と意欲的にコミュニケーションをとろうとしていた。
- ・Hello Songはいろいろなバージョンで歌わせたので、いろいろな表現を言うことができていた。
- ・Hello Songの活用や教員へのインタビューといった活動を行ったことで自然と繰り返し表現することができていた。
- ・Hello Songのいろいろなバージョンがあったので良かった。気付いたら何回も言っていた。

(質問) 「表現を繰り返し使うための学習活動の工夫」とあるが、なぜ繰り返しが必要だったのか。

⇒繰り返し言ったり聞いたりすることで表現に慣れ親しんでほしいというねらいがある。カードなどを使って何回も言わせるのではなく、児童自らが「自然に言いたい」「自然に使いたい」と思わせたかった。

視点2 元担任の先生のVTRや中間指導の実施が自分の気持ちを伝えたいという動機付けになっていたか。

- ・元担任が今の気持ちを表情やジェスチャーを付けて相手に伝わるように工夫をしながら話しているVTRと中間指導を連動させていたことが良かった。元担任が使っていた“too”を児童も意識して使っていた。
- ・元担任のVTRのジェスチャーや表現にもっと注目させても良かったと思う。そうすれば、もっとめあてを意識していたと思う。
- ・今までの研究で取り組んできた「中間指導」を丁寧にやっていたので、とても良かった。
- ・自分の気持ちを伝えたいという動機付けになっていたかはわからないが、元担任だったので興味をもって聞こうとしていた。
- ・元担任のVTRを見せたことで、意欲的に視聴し、表現やジェスチャーを見つけていた。



元担任のVTR (Hungry)

(質問) 元担任が使っている表現“hungry”や“sad”に興味をもって聞けていたが、児童の表現はどうしても“happy”が多くなってしまっていた。

⇒日本語で意味を理解させても良かった。だが、根拠のある happy であればそれは良いと思う。

直山先生 言葉の選択は難しい。状況によって“grate”が上になったり、“good”が上になったりする。これから継続して指導していき、気分によって選べるようにしていけばいい。

質問 めあてを出すタイミングはどうだったのか。最初ではなく、VTR後の方が良かったのではないか。

⇒めあてを出すタイミングは非常に悩んだ。児童の実態を考え、めあてを理解した上でVTRを見せた方が興味・関心をもつのではないかと考えた。

質問 児童がサインをする必要はあったのか。「自分の気持ちを伝えたい」ではなく「サイン集め」が目的にならないか。

⇒「サインを集める」を通して繰り返し表現したり、友達の発表を聞いたりすることを目的として行った。確かにサイン集めが目的になっている児童もいたが、3年生は外国語活動が始まったばかりなので良いと思う。だが、徐々にその意識は変えていかないとはいけない。

⇒**直山先生** 児童はどうしても見えるものにこだわってしまう。ワークシートをもっと工夫すれば、サイン集めにならずにすむのではないか。今回は気分ごとにサインをもらっていたが、それを児童一人一人に分けることで、その児童の気分に○を付けていけば良いと思う。

※直山先生からのアドバイスで作成したワークシート

気分	名前
その他	

改善前



名前						

改善後

その他

・“dictionary”を小学校で指導していることに驚き、小学校ではどんな指導をしているのか知りたくて参観させていただいた。小学校で外国語活動の基礎をしっかりやっているおかげで中学校の英語が成り立っていることを認識できた。

〈指導・講評：文部科学省初等中等教育局視学官 直山 木綿子 先生〉

児童を理解した仕掛け

- ・児童との関係性がしっかりできている。また、担任も児童理解ができている。
- ・児童がどう反応するかを予想し、仕掛けを作る。児童は見通しがもてたり、予想ができたりすると授業が楽しくなる。
- ・児童の特性やクラスの特徴をしっかり理解して仕掛けを設定することが重要である。

児童の本当の気持ちを大切にす

- ・昔の外国語教育は、“How are you?” “I’m fine, thank you. And you?”を機械的に表現させていたが、今回の授業は機械的に表現させるのではなく、コミュニケーションを行う目的や場面、状況を設定し、児童の本当の気持ちを言わせようという意図がしっかりと見えた。
- ・Hello Songの1~4回目は練習なので何を言うか指定をしているが、5・6回目以降は児童の本当の気持ちを表現させていたことがとても良かった。

Hello Song

- 1回目 普通に歌う。 } Practice
2・3・4回目 代表児童の今の気持ちで歌う。 }
5回目 各自それぞれが自分の気持ちを歌う。
6回目 隣の児童とのかけあいで歌う。
A “Hello. How are you?”
B “I’m . I’m .”
⇒5回目と6回目が本当の自分の気持ちを伝えることになり言語活動に繋がる。

1年後を見据える

- ・児童には「外国語の習得には時間がかかる」ことを理解させる。
- ・1回の授業だけ言語理解させてはいけない。あくまできっかけを作ってあげること。
- ・外国語は間違いながら身に付ける。だから、繰り返し聞いたり、言ったりすることが大切である。
- ・1年後に児童が成長を感じることができるよう指導をしていくことが重要である。

中間指導

- ・中間指導には2つの目的がある。
- ①言いたいけれどうまく言えないことは既習事項を使えばどう表現できるかを学級みんなで考えること。
- ②めあてに沿ったことができているかどうかを確認すること。